

会議録

会議の名称	西東京市国際交流組織設立検討懇談会（第2回）
開催日時	平成16年11月2日（火） 午後7時から午後8時40分まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎5階 501会議室
出席者	木下座長、山辺副座長、斎藤委員、佐々木委員、島谷委員、鈴木委員、富山委員、豊福委員（長谷川委員、楊委員欠席） 【事務局】大平課長、小関主査、堀主事、平山主事
議題	西東京市の現状と課題について 視察について
会議資料の名称	(1)会議録（第1回） (2)西東京市外国人登録者数の推移、外国人登録者数（国籍別） (3)西東京市の現状 (4)東京都内国際交流団体設置状況一覧 (5)国際交流組織の事業や役割について
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	

（佐々木委員、大平課長の紹介）

○木下座長：

事前にいただいている前回の会議録について、ご意見等をいただきたい。

○豊福委員：

第1回の会議録について、事務局へ先日メールを送った。懇談会委員の年齢構成についての質疑応答が記載されなかった理由について確認したい。

また、市内在住外国人の内訳に関する資料を希望した際に、「人権問題に関係するから」という発言が事務局および他の委員からあり、資料の提供はできないとのことであったが、横浜市などではどの地域にどこの国の人が住んでるかなどの情報を公開しているし、先日事務局から国籍構成の資料もいただいた。これは、市のポリシーが変わったということなのか。

○斎藤委員：

前回そのことに関する質問をした私の趣旨としては、人口構成などというよりは、

どんな問題をもった外国人たちがいるかということであった。人口構成は、問い合わせれば知ることは可能である。

○鈴木委員：

まずは、内容の議論より会議録の作成方法を決めた方がよいのではないか。

○事務局：

豊福委員の発言に関する記載がなかったという質問に関しては、余談のなかでの個人的な質問と受けとったためであり、また、今回各委員に送付したものは、案の段階なので会議録として確定したものではなく、修正が可能である。

○鈴木委員：

わき道の議論や余談でも議事録として記録した方がよい。年齢構成に関する意見がでたということを記録することに意味があるのではないか。

○事務局：

市では市民参加条例を制定しており、懇談会等の公募市民の選考に関する規定があるが、年齢への配慮という基準はない。今回の懇談会の委員の選考についても、この規定に基づいて実施したため、年齢についても特に考慮しなかった。意見が出たということを会議録に残すことで、行政内部での今後の検討材料となる。

○木下座長：

会議録の確認方法については、事前に送っていただいているので、各自、発言内容をチェックし、次回会議で確認した上で会議録として確定させるというシステムにしたい。

（全員賛同）

○島谷委員：

私の国際交流についての提案を、討論の土台にするつもりだったが、どうなったか。

○鈴木委員：

時間がないので、第1回会議録については保留し、修正意見があれば、紙ベースで事務局に提出すればよいのではないか。

○佐々木委員：

個人によって発言の受け止め方も違う。フィードバックの方法を考えた方がよい。

○木下座長：

事前に会議録の確認を各自ですという方法をとりたい。

○鈴木委員：

メールまたはファックスで会議録への意見、要望等を全員で共有できるのではないかな。

○豊福委員：

個人対事務局の方がスムーズではないか。

(全員賛同、個人と事務局で意見交換をし懇談会にて確認することに決定)

○座長：

次回の会議の冒頭で、第1回、第2回の懇談会の会議録を確認する。

○事務局：

(配布資料について説明。)

○木下座長：

質問等を出していただきたい。

○富山委員：

(誤字訂正について2箇所指摘)

○鈴木委員：

資料3『西東京市の現状』にある西東京市の課題として「事業に柔軟性をもたせることが難しい」とあるが、これはどういうことか。また、それぞれの現在の取り組みについて、より具体的に説明をしていただきたい。

○事務局：

(1) 日本語ボランティア養成講座について説明する。

13年度は、外国人のための日本語教室を実施したが、講師1人に対し、外国人が20人の教室スタイルであり、しかも受講者によって日本語のレベルに差があるため、とても非効率であった。また、外国人同士のつながりはできるかもしれないが、地域とのつながりは何も持てないまま講座が終わっていた。そのため、14年度については、外国人に日本語を教えるボランティアを養成する講座を行った後、講座の実習もかねて実際に外国人にマンツーマンで教える形式の日本語ボランティア養成講座を開催した。15年度に関しても14年度と同様に日本語ボランティア養成講座を行い、またそれぞれの年度の講座修了者による日本語ボランティア教室も生まれた。今年度については、日本語ボランティア経験者を対象にブラッシュアップ講座を実施している。

しかし、市の開催である以上、曜日や時間、場所、回数、期間などの条件が限定

され、柔軟性を持たせることが難しい。

○島谷委員：

その教室をどう評価しているか。

○佐々木委員：

さまざまな区などで講演、講師をさせていただいたが、西東京市の日本語養成講座は時間的な枠でも予算面でも遅れているのではないか。

○事務局：

次に(2)国際交流事業について説明する。

年に1回、国際交流や異文化理解についての規模の大きなイベントを行っている。13年度はシンポジウムおよび民族音楽をこもれびホールで、14年度は日韓交流をテーマに平田オリザさんを講師に迎えて講演会を市民会館で行った。15年度は、市と西東京市日本語ボランティア連絡会との共催で3月に齋藤孝さんを講師として迎え、ワークショップを兼ねた講演会をコールド田無で行った。今年度についても、西東京市日本語ボランティア連絡会との共催で、9月に太鼓を使ったワークショップ「世界の打楽器を叩こう！」を保谷公民館で実施した。しかし、年1回の単発的な事業であるため、「交流」にはつながりにくい。

最後に(3)外国語対応サポーターについて説明する。外国人が来庁し、担当課内での対応が困難なときに、外国語対応サポーターに登録している職員が、その課へ出向き簡単な会話の補助をするものである。現在、登録者数は10名ほどで英語、中国語、ポルトガル語などの登録がある。

○鈴木委員：

職員採用の際に、語学力を基準にした採用があればよいのではないか。

○事務局：

現在のところそのような採用基準はない。今ある人材で対応している。

○豊福委員：

旧田無市のときに田無国際交流協会があったと聞いているが、どうなったのか知りたい。

○山辺副座長：

それはあくまでも、そのような名称の一つの市民団体である。現在は、旧保谷市にあった国際交流会と合併して西東京市国際交流協会という市民団体になっている。

○富山委員：

一般市民対象の事業と外国人への直接支援をどう考えているのか。

○事務局：

市民対象事業により国際理解が深まれば、外国人の住みやすさにつながると考えている。当然、直接支援も必要であると考えている。

○島谷委員：

国際交流がどういうことなのか話し合わない、何も決まらないのでは。

○木下委員：

ここでは、西東京市の現状についての確認をする。

○山辺副座長：

国内の姉妹都市はあるが、海外の姉妹都市について具体的に提案された例はあったか。

○事務局：

これまでにない。市の総合計画に項目としてあがってはいるので、今後の社会情勢をみながら検討するという考え方である。

○鈴木委員：

西東京市の課題にある「行政での限度」とはどういうことか。

また、行政のすべきこと、市民レベルのものとはどういうことか。

○事務局：

事業の開催時間帯や回数、飲食等に税金を使うというのが難しい現状など、行政が交流事業を直接実施するには限界があり、柔軟性に欠ける。

また、ホームステイ等について身元調査をすることなどが、行政がのすべきことなのかという点で疑問がある。他市の状況をみると、いわゆる国際交流協会などがその役目を担っている。

○豊福委員：

海外派遣などへの補助制度を考えたこと、実施したことはあるか。

○事務局：

実施したことはない。

○豊福委員：

行政が国際交流の細かいことをやるのは難しいが、できあがったものを財産としていくことが仕事だと思う。

○木下座長：

学校での国際化に関する総合学習への対応はどうなっているのか。

○事務局：

外国人を紹介してほしいという問い合わせがあったときは、市内の日本語ボランティア団体などに問合せ、対応している。

○佐々木委員：

市内外国人の年少者、義務教育年齢の人口分布など、年齢層を知りたい。また、年少者のための日本語支援についても具体的に知りたい。

○事務局：

16歳未満・以上というものであれば資料がある。

○富山委員：

日本語適応教室の開設状況はどうなっているのか。

○事務局：

市内に1校で週2回実施している。また、日本語が全く話せない児童に通訳がつくが、期間等は限られるなど、条件がある。充分であるかは疑問がある。

○佐々木委員：

年少者の場合、自分の意思で日本に来たわけではなく、ストレスを抱えている外国籍の子どもが多いが、メンタル面でのサポートはあるのか。

○事務局：

現在、教育相談で対応している。

○佐々木委員：

彼らが、どんな問題を抱えているのか、またどの学年にどのくらい外国籍の児童がいるかなどを知りたい。

○島谷委員：

保証人の問題、危機管理、地震、災害などへの対応はどうなっているか。

○鈴木委員：

西東京市に留学生はどのくらいいるのか。

○佐々木委員：

武蔵野大学には100名ほどいる。

○鈴木委員：

どんな要望があるのか、どんなことに困っているのか、外国人の意識調査等を行ったことはあるか。

○事務局：

ケースごとの事例のみで、調査等を行ったことはない。

○島谷委員：

事例などならたくさん知っている。

○木下座長：

今後の予定について、視察先について事務局から武蔵野市などを例示されているが、意見を聞きたい。

○山辺副座長：

武蔵野市は場所も近く、組織的にも先進的で良いと思う。週末の11月6日に武蔵野国際交流まつりがあるので、各自行ってみてはどうか。

○富山委員：

武蔵野と立川が良いと思う。

○木下座長：

次回は11月17日だが、そのときに武蔵野市国際交流協会の方に来ていただくことは可能か、事務局から交渉していただきたい。先方の都合がつかない場合は本日出た資料などの要望について話し合いをする。

（今後の懇談会は午後6時30分に開始することに決定。今後の日程の確認）

○佐々木委員：

武蔵野国際交流まつりの写真等もあると良いと思う。

○事務局：

17日については交渉する。また、6日の武蔵野国際交流まつりには事務局職員も行き、写真等を撮影するなど、様子を紹介できるようにする。

○木下座長：

では、次回は11月17日（水）午後6時30分から会議を開催することとし、本日はここまでとする。